

## 所得および価格の変化が消費財需要量におよぼす影響

財が正常財の場合、価格の下落によって生じる代替効果も所得効果も需要量を増大させる。下級財の場合は、所得効果が需要量を減少させるので、需要法則に反する現象が起こることがある（とくに、低所得層にとっての生活必需品）

### I. 消費者の意思決定

- A. 予算制約の下での効用最大化
- B. 予算制約線と無差別曲線の接点

### II. 所得変化の影響

- A. 所得支出曲線
  - 1. 需要の所得弾力性

$$\text{需要の所得弾力性} = \frac{\text{消費量変化の割合}}{\text{所得変化の割合}}$$

- 2. 消費財の分類

- a. 正常財と下級財
    - (1) 正常財 需要の所得弾力性  $> 0$
    - (2) 下級財 需要の所得弾力性  $< 0$
  - b. 必需品と奢侈品（贅沢品）
    - (1) 必需品 需要の所得弾力性  $< 1$
    - (2) 奢侈品 需要の所得弾力性  $> 1$

- B. エンゲルの研究

- 1. エンゲルの法則とエンゲル係数
    - a. 食費の所得弾力性  $< 1$

- b. エンゲル係数  $= \frac{\text{食費}}{\text{所得}}$

- 2. 豊かな社会の問題

- a. 必要な食費
    - b. 贅沢な食費

### III. 価格変化の影響 — 需要法則の説明

- A. 価格変化の二つの効果

- 1. 相対価格の変化 → 代替効果
  - 2. 実質所得の変化 → 所得効果

- B. 価格下落の影響： 正常財の場合

- 1. 代替効果 → 相対的に安価 → 需要量増大
  - 2. 所得効果 → 実質所得上昇 → 需要量増大

#### IV. ギッフェン逆説

##### A. 下級財（劣等財）

1. 実質所得増大の効果： 需要量の減少
2. 実質所得減少の効果： 需要量の増大

##### B. ギッフェン逆説が起こる条件

###### 1. 価格下落の影響

- a. 代替効果 → 相対的に安価 → 需要量増大
- b. 所得効果 → 実質所得上昇 → 需要量減少

###### 2. 代替効果と所得効果の大小関係

- a. 所得効果小 → ギッフェン逆説は起こらない。
- b. 所得効果大 → ギッフェン逆説が起こる。

#### 参考文献

教科書．第 6 章．